

# 平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	ぐりーんバス運行事業			会計	款	項目	大	小
				01	08	04	02	02
政策	01	1節 整備・開発と自然環境のバランスがとれた流山（都市基盤の整備）	主管課	都市計画課				
施策	1-8	利便性と快適性を重視した公共交通機関の整備充実	主管課長	中山 貢一				

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	主に公共交通空白地域（駅徒歩圏外地区）の市民	意図	交通不便地域の市民に対し、最寄り駅との交通手段を確保することで交通利便性の向上を図る。
事業内容	ぐりーんバスの路線設定、ダイヤの管理を行う。また、既存路線についても利用の向上が図られるよう必要な対応・工夫を行う。		
事業開始から現在までの状況変化	平成17年8月のつくばエクスプレス開業による市内公共交通体系の変化及び路線バスが再編成されるとともに、既成市街地と駅を結ぶぐりーんバスを導入しており、現在、5路線の運行を行っている。今後、事業の需要予測及び費用対効果等を考慮しながら、段階的に整備を進めていく。		

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
		①	利用者数（年間）	678,155	681,270	722,015	
②	1日当たり利用者数	1863.10	1871.60	1983.60	人	↑↑↑	
③	路線数	6	5	5	路線	→→	
④	停留所設置数	96	93	93	カ所	→→	
指標で表すことができない定性的な成果	既存ルート of 経路の一部変更に伴う運行間隔の短縮により、利用者の利便性が向上した。			目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況） ・平成26年度も利用者数は増加しており、市民の有効な交通手段としての役割を果たしている。 ・平成26年4月の消費税率引き上げに伴い、運賃の改定を行った。 ・平成27年3月から西初石ルート of 経路を一部変更し、運行間隔を短縮した。 ・消費税率引き上げに伴う運行経費の増加、ICカード利用率の上昇に伴う乗客一人あたりの収入の減少が影響し、利用者数は増加したものの、5路線全体の収支率（運賃収入/運行経費）は前年度と同じ67.4%であった。			
事務事業のコスト		平成24年度	平成25年度	平成26年度			
事務事業の総コスト(a=b+c)		40,195,620	55,142,521	56,230,170			
事業費(b)(円)		28,924,020	44,157,421	46,052,598			
うち一般財源		28,924,020	44,157,421	46,052,598			
職員給与費(c)(円)		11,271,600	10,985,100	10,177,572			
人役・職員(人)		1.50	1.50	1.40			
人役・再任用(人)							
人役・臨職(人)		0.30	0.30	0.30			
人役・嘱託(人)							
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）							
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）							

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	利便性向上により利用者数の増加を図るため、既存ルートの見直しを行う。	③取り組みの課題	運行経費の増加を踏まえ、事業採算性を考慮する必要がある。
②今年度(H26)に実施した取り組み	運行間隔を短縮するため、時間帯別で経路を一部変更する対応をとった。	④今後の改善計画	費用対効果の検証、経路周辺の土地利用や住環境を考慮した路線の検討に合わせて、バス利用促進のための取り組みを行う。